

## 国語 第6学年 話し言葉と書き言葉 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、話し言葉と書き言葉では、場面を共有する度合いや伝え方が違うと知り、相手に必要な情報を補って書く。話し言葉を劣った言葉として扱わない。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

### 第6学年 国語科学習指導案

1 単元名「話し言葉と書き言葉」 教材名「話し言葉と書き言葉」

#### 2 単元の目標

話し言葉と書き言葉の違いに気付き、場面に合う表現を使うことができる。文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

#### 3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①話し言葉と書き言葉の違いに気付き、場面に合う表現を使っている。（〔知識及び技能〕(1)イ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直している。（B(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

#### 4 指導上の考察

##### （1）単元について

話し言葉と書き言葉では、場面を共有する度合いや伝え方が違うと知り、相手に必要な情報を補って書く。話し言葉を劣った言葉として扱わない。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)イを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

##### （2）児童について（学級の実態を書く）

##### （3）指導について

独自例「それ、あとでここに置いて」を、読んだ相手が場所と物を決められるかで検討する。日時や場所は架空の条件を明示して自分で設定し、伝達に必要な語を加える。おおむね満足できる状況は、文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

#### 5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○会話と文の伝わり方を比べる。省かれた情報や指示語を確かめる。相手に合わせて書き換える。残した表現と変えた表現の理由を説明する。 評価：思①（発言・学習記録）

#### 6 本時の指導（1／1）

##### （1）本時の目標

文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直すことができる。

## （２）学習過程

### 【導入】

学習活動：使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。

○「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」

【めあて】話し言葉と書き言葉では、場面を共有する度合いや伝え方が違うと知り、相手に必要な情報を補って書く。

予想される児童の反応：・「ここ」だけでは場所が分からない。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

### 【展開】

学習活動：○「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」

会話と文の伝わり方を比べる。省かれた情報や指示語を確かめる。相手に合わせて書き換える。残した表現と変えた表現の理由を説明する。

口頭での伝え方と、場面を知らない相手に渡す文章を並べた記録。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・「ここ」だけでは場所が分からない。

・話す時は指で示せるが文では名前が必要。

・会話の勢いを全部消す必要はないと思う。

指導上の留意点：独自例「それ、あとでここに置いて」を、読んだ相手が場所と物を決められるかで検討する。日時や場所は架空の条件を明示して自分で設定し、伝達に必要な語を加える。

想定するつまずき：口語をすべて硬い漢語へ変えればよいと考える、指示語の指すものを説明しない。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思①文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直している。（発言と学習記録）

### 【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・会話の勢いを全部消す必要はないと思う。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

## （３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

